

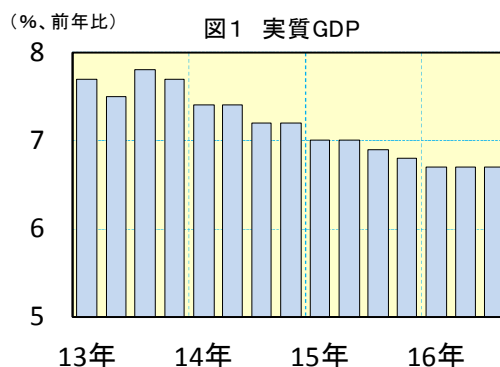
1. アジア主要国・地域の経済動向

中国 ～ 実質GDPは3四半期連続で前年比+6.7%

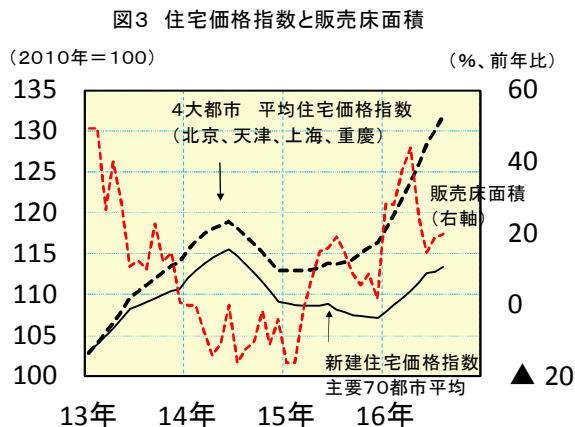
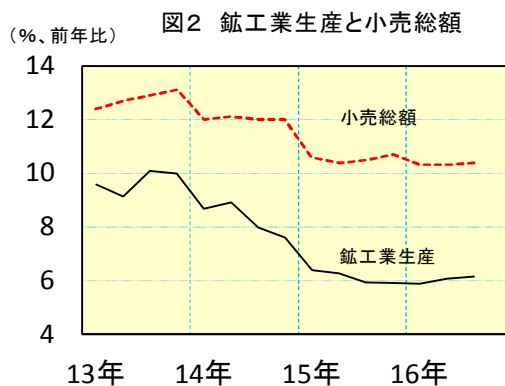
2016年7-9月期の実質GDPは、前年比+6.7%と1-3月期、4-6月期に続き3四半期連続で同じ伸び率になった(図1)。支出項目別の内訳項目は公表されていないため、関連する指標をみると、以下の通りである。

まず、日本の個人消費に相当する都市部の社会消費品小売総額は、7-9月期は前年比+10.5%と、4-6月期(+10.2%)とほぼ同じ伸びとなった。鉱工業生産の付加価値額も4-6月期は前年比+6.2%、7-9月期は+6.1%とほとんど同じ伸びになった(図2)。

こうした背景には、景気の悪化を避けたい中国政府が大規模な金融緩和と固定資本投資を進めていることがある。とりわけ北京、上海、広州、重慶といった主要都市の住宅価格は高い伸びを続けており、これら4大都市の9月の平均価格は前年比+22.3%となっている。販売床面積もアップダウンはあるが、すう勢としてみると増加を続けており、2016年7-8月期は前年を+19.9%上回っている(図3)。この間、国営・国有企業の過剰設備問題の解決は遅れている。



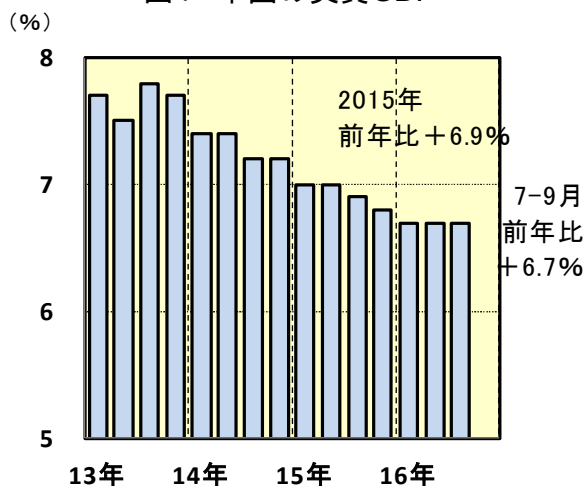
(出所) 図1、図2、図3は中国国家統計局



暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	7.3	6.9	6.8	6.7	6.7	6.7
実質GDP (前期比年率%)	7.3	6.9	6.1	4.9	7.4	7.4
鉱工業生産 (前年比%)	8.3	6.1	6.1	5.9	6.2	6.1
消費者物価 (前年比%)	2.0	1.4	1.4	2.1	2.1	2.0
マネーサプライM2 (前年比%)	12.2	13.3	13.3	13.4	11.8	11.5
貸出基準金利 (1年、%)	5.60	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
株価指数 (上海総合指数)	3,235	3,539	3,539	3,004	2,930	3,005
外貨準備高 (億米ドル)	38,430	33,304	33,304	32,100	32,100	31,700
貿易収支 (通関、億米ドル)	3,801	5,932	1,677	1,745	2,204	1,464

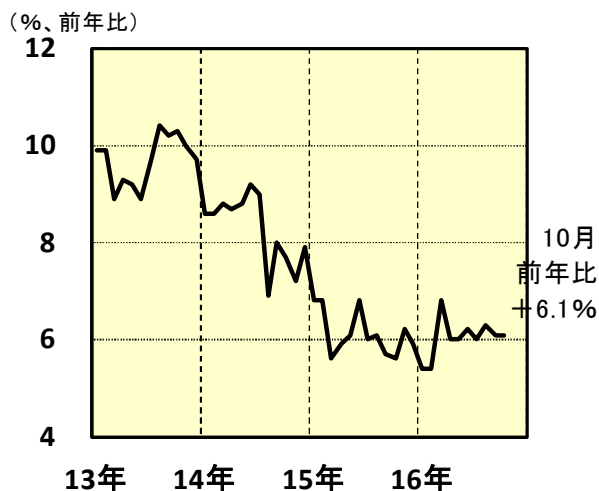
(図 中国の主要経済指標)

図1 中国の実質GDP



(出所) 国家統計局「中国経済景気月報」、速報資料

図4 鉱工業生産付加価値額



(注) 1月、2月は1-2月の累計値

図2 輸出額

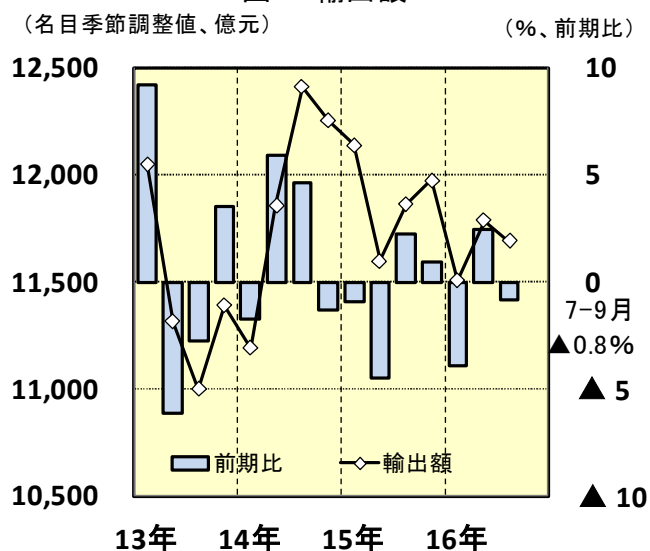


図5 社会消費品小売総額

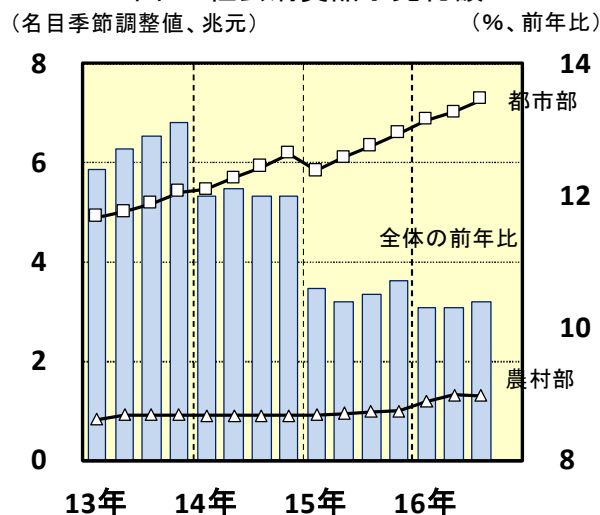


図3 輸入額

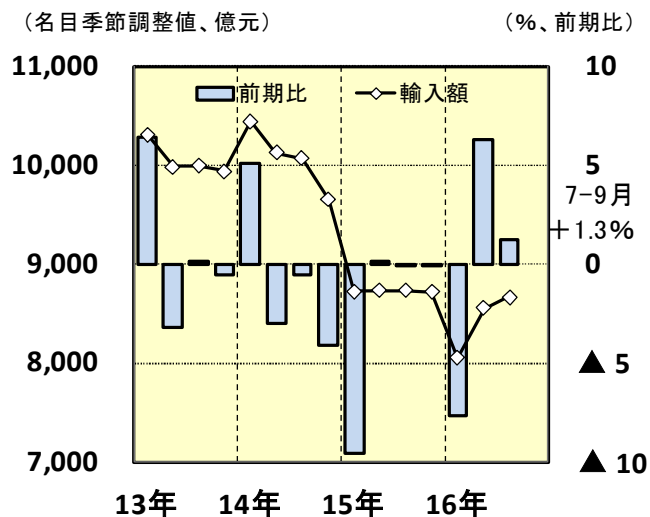
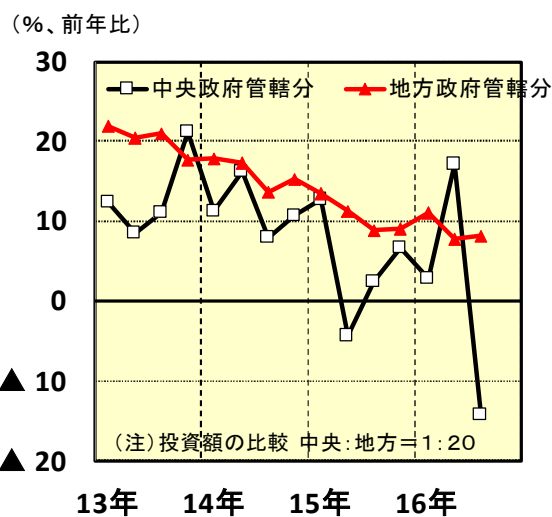
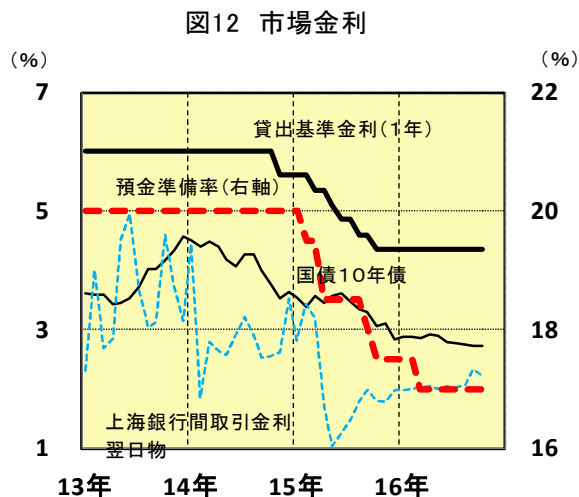
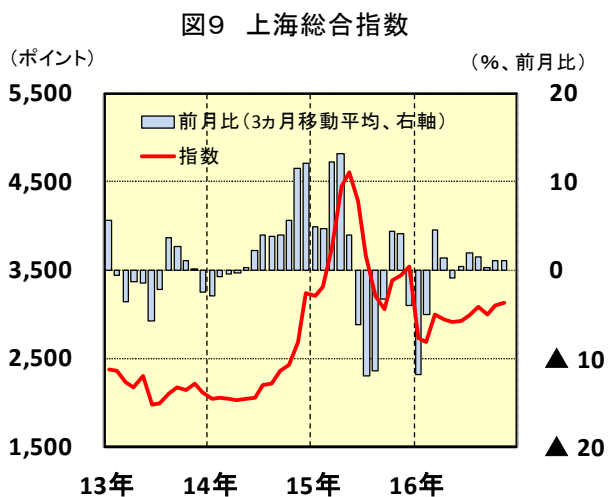
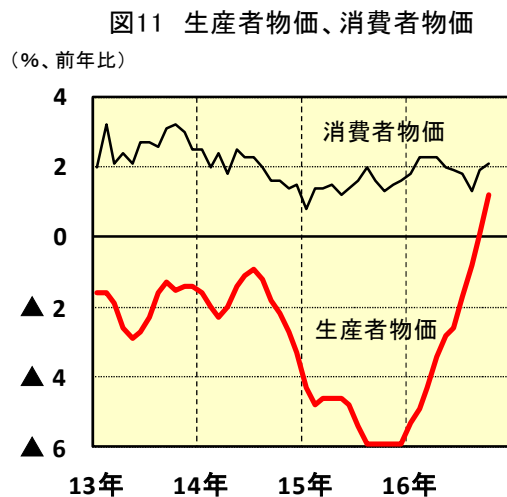
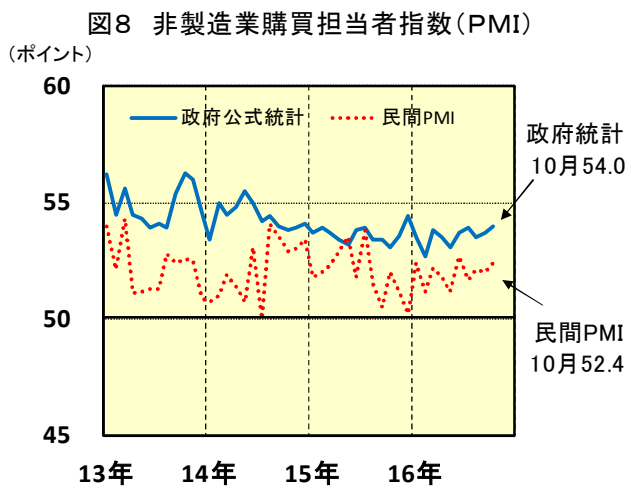
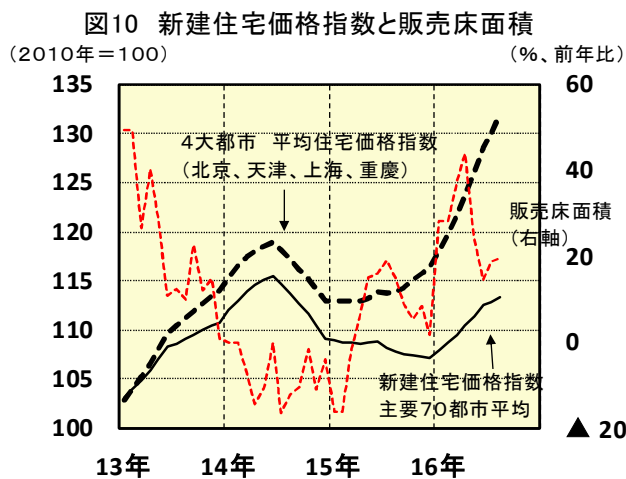
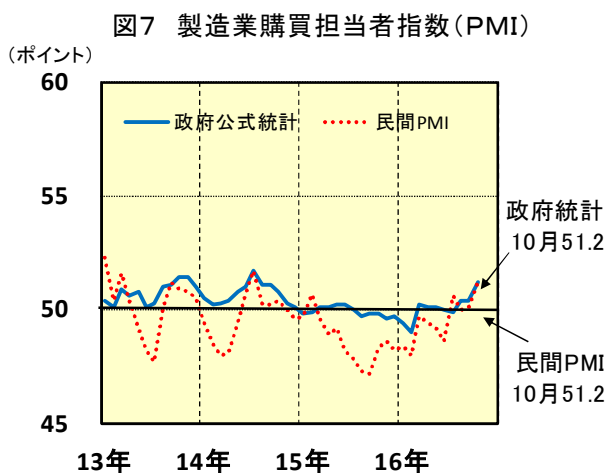


図6 都市部固定資産投資額





(出所) 中華人民共和国国家統計局「中国経済景気月報」、中国人民銀行ほか

韓国 ～ 公共投資が景気を下支え

7-9 月期の実質 GDP は前年比+2.7%と、4-6 月期の+3.3%を下回った。

需要項目別にみると、輸出は前年比+2.3%の低い伸びに止まった。企業の設備投資も輸出減少の影響を受け、4-6 月期の前年比▲2.6%に続き、7-9 月期も▲4.5%と 3 四半期続けて減少した。このため、政府は公共投資の前倒しに力を入れ、7-9 月期の建設投資は前年比+11.9%と 4-6 月期の+10.8%を上回る伸びとなった。民間消費は、7-9 月期が前年比+2.6%と 4-6 月期の+3.3%を下回った。

産業別に GDP をみると、製造業は前年比+0.7%と低い伸びに止まったが、建設業は公共投資の実施を受けて 1-3 月期が+11.1%、4-6 月期が+12.4%、7-9 月期が+11.3%と 3 四半期続けて 2 桁台の増加となった。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	3.3	2.6	3.1	2.8	3.3	2.7
実質GDP (前期比年率%)	3.3	2.6	2.8	2.0	3.2	2.8
鉱工業生産 (前年比%)	0.2	▲ 0.6	0.1	▲ 0.3	1.1	-
消費者物価 (期中平均%)	1.3	0.7	0.3	0.1	0.0	0.6
マネーサプライM2 (前年比%)	8.1	8.2	8.2	7.8	6.7	-
CDレートの(3ヵ月物、%)	2.49	1.67	1.67	1.63	1.43	1.38
株価指数 (KOSPI 指数)	1,916	1,961	1,961	1,996	1,970	2,044
外貨準備高 (億米ドル)	3,636	3,680	3,680	3,650	3,651	-
貿易収支 (億米ドル)	472	903	237	220	271	-

台湾 ～ 前年比 2%台の伸び

7-9 月期の実質 GDP は前年比+2.1%と、4-6 月期の+0.7%から伸びを高めた。

需要項目別にみると、GDP の約 7 割を占める輸出は 7-9 月期が前年比+3.6%と、4-6 月期の+0.7%から伸び率が高まった。輸出の主力商品である中国向け半導体や液晶パネルの増加などが寄与した。設備投資も公共投資の増加に加え、企業の投資マインドがいく分回復したこともあり、7-9 月期は前年比+3.2%と 5 四半期振りにプラスになった。台湾当局は来年度も公共投資を積み増すとしており、回復しつつある景気を下支えするものとみられる。民間消費は賃金や雇用者数の伸び悩みなどから 7-9 月期は前年比+2.4%と低い伸びに止まった。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	3.9	0.7	▲ 0.9	▲ 0.3	0.7	2.1
実質GDP (前期比年率%)	3.9	0.7	0.8	3.4	0.2	4.5
鉱工業生産 (前年比%)	6.4	▲ 1.7	▲ 5.7	▲ 4.6	▲ 0.2	-
消費者物価 (前年比%)	1.2	▲ 0.3	0.3	1.8	1.3	1.3
マネーサプライM2 (前年比%)	6.1	5.8	5.8	4.7	4.7	-
短期金利 (CP31-90日、%)	0.62	0.43	0.43	0.39	0.40	-
株価指数 (加権指数)	9,307	8,338	8,338	8,745	8,667	9,167
外貨準備高 (億米ドル)	4,190	4,260	4,260	4,316	4,336	4,367
貿易収支 (億米ドル)	382	481	120	122	118	-

タイ ～ 公共投資が景気を下支え

4-6 月期の実質 GDP は前年比+3.5%と、1-3 月期の+3.2%から伸び率が拡大。

需要項目別にみると、輸出は前年比+0.6%と 1-3 月期の+4.9%から減速した。一方、民間消費は前年比+3.8%と 1-3 月期の+2.3%から伸びが高まったが、民間設備投資は前年比+2.7%と 1-3 月期の+4.9%から減速した。低迷する国内景気を下支えたのは公共投資で、1-3 月期の前年比+13.3%に続き 4-6 月期も+10.4%と 2 桁台の伸びとなった。今後は、タイ国民の敬愛を集めた国王の死去（10 月）に伴い華やかな催しや消費に自粛ムードが出てくることが懸念されている。タイ政府は道路や発電電などのインフラ投資、設備投資や住宅購入に対する減税措置などの景気浮揚策を続けている。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP（前年比%）	0.9	2.8	2.8	3.2	3.5	-
実質GDP（前期比年率%）	0.9	2.8	3.2	3.6	3.2	-
製造業生産（前年比%）	▲ 5.2	0.3	0.3	▲ 0.9	1.7	-
消費者物価（前年比%）	1.9	▲ 0.9	▲ 0.9	▲ 0.5	0.3	-
マネーサプライM2（前年比%）	4.7	4.4	4.4	3.7	4.3	-
インターバンク金利（3ヵ月、%）	2.18	1.63	1.63	1.60	1.59	-
株価指数（SET指数）	1,498	1,288	1,288	1,408	1,445	1,483
外貨準備高（億米ドル）	1,571	1,565	1,565	1,751	1,787	-
貿易収支（億米ドル）	▲ 2	117	39	82	111	-

香港 ～ 前年比 1%台の伸び

7-9 月期の実質 GDP は前年比+1.9%と低いながらも 4-6 月期の+1.7%から伸びが高まった。これは、輸出が 2 四半期続けて増加したことに加えて、設備投資も 6 四半期振りにプラスになったためである。

需要項目別にみると、輸出は 7-9 月期が前年比+1.9%と、2 四半期続けて増加した（4-6 月期+2.0%）。設備投資も前年比+6.1%と 6 四半期振りにプラスになった。民間消費も、7-9 月期は前年比+1.2%と 4-6 月期（+0.5%）に続き増加した。外国人観光客数をみると、全体の 8 割を占める中国本土からの観光客数が減少し、7-9 月期は前年比▲ 3.6%と 5 四半期連続のマイナスになった。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP（前年比%）	2.6	2.4	1.9	0.8	1.7	1.9
実質GDP（前期比年率%）	2.6	2.4	0.8	▲ 1.6	1.5	0.6
鉱工業生産（前年比%）	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 1.2	▲ 0.4	-
消費者物価（前年比%）	4.4	3.0	2.3	2.8	2.4	2.7
マネーサプライM2（前年比%）	9.5	5.5	5.5	3.5	3.1	4.8
インターバンク金利（3ヵ月、%）	0.38	0.40	0.39	0.58	0.54	0.57
株価指数（ハンセン指数）	23,605	21,914	21,914	20,777	20,794	23,297
外貨準備高（億米ドル）	3,285	3,588	3,588	3,619	3,606	3,625
貿易収支（億米ドル）	▲ 666	▲ 671	▲ 140	▲ 125	▲ 133	-

マレーシア ～ 4%台の伸びが続いている

7-9月期の実質GDPは、前年比+4.3%と4%台の伸びが続いている。

需要項目別にみると、GDPの6割強を占める民間消費は雇用環境の改善や賃金の上昇を主因に7-9月期は前年比+6.4%と、4-6月期の+6.3%に続き高い伸びとなった。民間投資も商業施設や鉄道関連の整備事業の拡大を受けて前年比+4.7%と4-6月期の+5.6%に続き高目の伸びとなった。一方、GDPの7割を占める輸出は前年比▲1.3%とマイナスになった（4-6月期+1.0%）。

マレーシア中央銀行は2016年の経済成長率見通しを前年比+4.0%から+4.5%の間と予測、消費や投資の国内需要の拡大が引続き景気を押し上げると見込んでいる。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP（前年比%）	6.0	5.0	4.5	4.2	4.0	4.3
実質GDP（前期比年率%）	6.0	5.0	4.9	4.1	2.8	6.1
鉱工業生産（前年比%）	5.1	4.5	2.9	3.3	3.0	3.2
消費者物価（前年比%）	3.1	2.1	2.6	2.6	1.6	1.5
マネーサプライM2（前年比%）	7.5	2.9	2.9	0.9	1.8	2.2
インターバンク金利（3ヵ月、%）	3.96	3.81	3.81	3.69	3.65	3.31
株価指数（KLSE指数）	1,761	1,693	1,693	1,718	1,654	1,653
外貨準備高（億米ドル）	1,109	953	953	970	957	977
貿易収支（億米ドル）	253	239	71	57	42	42

インドネシア ～ 5%前後の伸びが続いている

7-9月期の実質GDPは前年比+5.0%と、5%前後の成長が続いている。

需要項目別にみると、民間消費は所得や雇用環境の改善などから7-9月期は前年比+5.0%と、4-6月期の+5.2%に続き高い伸びとなった。設備投資は前年比+4.1%と、4-6月期の+5.5%から伸びが鈍化した。一方、輸出は前年比▲6.0%と5四半期連続のマイナスになった。

産業別にGDPをみると、情報通信が前年比+9.2%、金融・保険が+8.8%、運輸・倉庫が+8.2%とサービス部門が高い伸びを続けている。

政府は経済改革の一環として高速道路、鉄道、港湾、空港などの地方への投資を進めるため、外資規制の緩和による外国からの投資誘致に力を入れている。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP（前年比%）	5.0	4.8	5.0	4.9	5.2	5.0
実質GDP（前期比年率%）	5.0	4.8	▲7.1	▲1.4	4.0	3.2
鉱工業生産（前年比%）	4.8	4.8	4.8	4.1	5.0	5.1
消費者物価（期中平均%）	6.4	6.4	3.4	4.5	3.5	3.1
マネーサプライM2（%）	11.9	8.9	9.0	7.4	8.7	-
政策金利BIレト（%）	7.75	7.50	7.50	6.75	6.50	6.50
株価指数（IDX指数）	5,227	4,593	4,593	4,845	5,017	5,365
外貨準備高（億米ドル）	1,119	1,059	1,059	1,075	1,098	1,157
貿易収支（億米ドル）	▲22	76	4	16	20	-

シンガポール ～ 7-9 月期は+0.6%に減速

7-9 月期の実質 GDP は前年比+0.6%と、4-6 月期の+2.0%から減速した。

産業別にみると、製造業は電子部品や輸送機器、バイオメディカルなどが減少し、7-9 月期は前年比▲1.1%のマイナスになった。また、建設業は7-9 月期が前年比+2.5%と4-6 月期の+2.6%とほぼ同じ伸びに止まった。鉄道や駅周辺施設の建設などの公共工事が進んだものの、民間建設投資が減少した。

産業別に GDP をみると、GDP の6割以上を占めるサービス業が、卸売や小売などを中心に7-9 月期は前年比▲0.1%と、4-6 月期の+1.2%から伸びが縮小した。

政府は2016年の経済成長率見通しを前年比+1.0%から+2.0%の間と予測しているが、不確実な要因が多く景気回復は限定的と見込んでいる。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	2.9	2.0	1.8	2.0	2.0	0.6
実質GDP (前期比年率%)	2.9	2.0	6.2	0.1	0.2	▲ 4.1
鉱工業生産 (前年比%)	2.6	▲ 5.2	▲ 6.7	▲ 1.0	▲ 0.3	1.3
消費者物価 (前年比%)	1.0	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.2
マネーサプライM2 (前年比%)	3.3	1.5	1.5	2.1	4.3	-
インターバンク金利 (3ヵ月、%)	0.14	0.18	0.18	0.19	0.11	-
株価指数 (STI指数)	3,365	2,883	2,883	2,841	2,841	2,869
外貨準備高 (億米ドル)	2,569	2,477	2,477	2,465	2,489	-
貿易収支 (億米ドル)	435	499	124	98	126	-

ベトナム ～ 5%台の伸びが続いている

7-9 月期の実質 GDP は前年比+5.9%と、4-6 月期 (+5.6%) を上回る伸びになった。

産業別にみると、GDP の約3割を占める工業（製造業、鉱業）が1-9 月期は前年比+7.2%と高い伸びとなった。GDP の約4割を占めるサービス業も、堅調な国内消費（1-9 月期の民間最終消費が前年比+7.0%）を背景に前年比+6.7%となった。なかでも、卸・小売、事務所サービス、金融・保険が好調だった。中国や韓国、タイなどからの観光客数が1-9 月累計で前年比+30.8%増加し、外食、ホテルなどの伸びにつながった。輸出は、携帯電話や電気製品などの機械類やその他電子・電気部品等が増加し、1-9 月累計では前年比+6.7%となった。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	6.0	6.7	7.2	5.5	5.6	5.9
鉱工業生産 (前年比%)	7.7	10.0	8.9	6.3	7.5	7.4
消費者物価 (前年比%)	4.1	0.6	0.3	1.3	1.7	2.1
マネーサプライM2 (前年比%)	19.7	-	-	-	-	-
リファイナンス金利 (%)	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.5
株価指数 (VN指数)	546	579	579	561	632	686
外貨準備高 (億米ドル)	341	283	283	320	288	-
貿易収支 (億米ドル)	8	▲ 41	2	8	7	-

フィリピン ～ 7%前後の伸びが続いている

4-6 月期の実質 GDP は前年比+7.0%と、7%前後の伸びが続いている。

需要項目別にみると、GDP の 7 割を占める民間消費は海外からの労働者送金の増加を主因に前年比+7.3%となった。設備投資も商業施設の建設や製造業などが伸び、前年比+27.6%の高い伸びとなった。輸出は前年比+6.6%と 1-3 月期の+7.3%に続き、高い伸びとなった。

産業別に GDP をみると、GDP の 6 割を占めるサービス業が 4-6 月期は前年比+8.4%と 1-3 月期の+7.6%に続き、高い伸びとなった。製造業も前年比+6.9%と高い伸びが続いている。

政府は 2016 年の実質 GDP 成長を前年比+6.8%から+7.8%の間と予測。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	6.1	5.8	6.3	6.9	7.0	-
実質GDP (前期比年率%)	6.1	5.8	8.2	5.1	7.4	-
鉱工業生産 (前年比%)	7.3	2.4	3.5	17.5	8.8	-
消費者物価 (前年比%)	4.1	1.4	1.0	1.1	1.9	2.0
マネーサプライM2 (前年比%)	10.5	9.1	9.1	11.8	13.1	-
TB金利 (3ヵ月、%)	1.24	1.77	1.71	1.56	1.59	1.32
株価指数 (PSE指数)	7,231	6,952	6,952	7,262	7,796	7,630
外貨準備高 (億米ドル)	795	807	807	830	853	-
貿易収支 (億米ドル)	▲ 33	▲ 217	▲ 45	▲ 55	▲ 64	-

インド ～ 7%台の成長が続いている

4-6 月期の実質 GDP は前年比+7.1%と、5 四半期連続で 7%台の成長が続いている。

需要項目別にみると、GDP の約 6 割を占める民間消費が好調で、4-6 月期は前年比+6.7%となった。輸出も前年比+3.2%と 6 四半期振りに増加した。一方、民間投資は電力不足や高い金利水準が影響して減少し、固定資本形成は前年比▲3.1%と 2 四半期続けてマイナスになった (1-3 月期▲1.9%)。

産業別に GDP をみると、GDP の約半分を占めるサービス業が好調で、金融・保険、不動産、事業所サービスが前年比+9.4%、商業、ホテル、運輸・通信が+8.1%増加した。製造業も前年比+9.1%増加した。

暦年ベース	2014年	2015年	2015/10-12月	2016/1-3月	4-6月	7-9月
実質GDP (前年比%)	7.1	7.3	7.3	7.9	7.1	-
鉱工業生産 (前年比%)	1.8	3.2	1.7	0.2	0.6	0.7
消費者物価 (前年比%)	6.7	4.9	5.6	4.8	5.8	-
マネーサプライM3 (前年比%)	11.1	12.9	12.9	11.3	10.6	-
レボ金利 (%)	8.00	6.75	6.75	6.75	6.50	-
株価指数 (SENSEX指数)	27,499	26,118	26,118	25,342	27,000	27,866
外貨準備高 (億米ドル)	2,766	3,504	3,504	3,559	3,632	-
貿易収支 (億米ドル)	▲ 1,401	▲ 1,250	▲ 316	▲ 183	▲ 183	-

(2016 年 11 月 15 日 京都総合経済研究所 小堀 潔)